公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	地域支援センター第2わとと		
○保護者評価実施期間	2024年4月1日		～ 2025年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2024年4月1日		～ 2025年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所移転したことで、広いお庭で活動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは近くの公園へ歩いて出かけたり車で移動して行っていたが、短い時間の中でもすぐにお庭へ出て戸外遊びができるようになった。 ・お庭の中に畑を作ったことで農業を身近で体験でき、毎日成長を観察できたりする。 	まだ遊具が少ないため、道具などを工夫して遊びの幅を広げていきたい。
2	事業所移転したことで子どもたちが活動できるスペースが広くなった。	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害の児童も複数いるため、クールダウンする部屋を分けることができるようになった。 ・昼食やおやつを食べている児童と食べ終わった児童を分けることができ、それぞれがゆっくりと過ごすことができるようになった。 	・不穏な状態の児童が複数出た時、クールダウンできる場所の確保を検討していきたい。
3	個々に合わせて自立を促す取り組みができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の成長に合わせて来所時に自分の荷物を出してもらったり、帰る際にはカバンに荷物を片付けてもらったりしている。 ・水分補給のタイミングを自分でタイマーを合わせて自発的に飲む取り組みをしている。 ・おもちゃを片付ける時間が来たことを音楽を鳴らしてみんなに知らせてくれる取り組みをしてくれたりしている。 ・連絡ノートに貼る写真を切り貼り 	学校卒業後のことを想定して、生活していく力がついていくような取り組みをしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	OT・PT・STなどの専門職がない。	専門職がないため専門的な角度からの視点で見れず、より深い支援が難しい部分が出てきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに専門職の職員に入ってもらったり、他部署の専門職からアドバイスをもらう。 ・研修などへ行き専門的な知識を得ていく。 ・個別で受けているリハビリなどの情報を家族から教えていただき第2わととの中でもできるリハビリを行っていく。
2	多くの職員が長く勤務してくれていることはとても良いが、全体的に高齢化してきている。	子どもたちはどんどん成長していき体力がついてきて、職員はどんどん落ちていく中、公園などで急に子どもが走り出したとき追いつけなかつたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく若い職員に入職してもらう。 ・安全確保がしやすい公園などを選択して活動する。
3	地域の方・放課後児童クラブ・保護者同士などとの交流ができていない。	これまで事業所自体が狭かったため、あまり人を呼んでという取り組みが難しかったが、事業所移転したことで部屋も広くなり広いお庭もあるためそれを活かして交流する機会を考えていきたい。	10周年となる節目の年になるので、それをいい機会にして交流できるイベントなどを企画していきたい。